

北海道東部では稀な クスサン (鱗翅目: ヤママユガ科) の記録

川原進¹・橋本勝²

1. 099-3614 北海道斜里郡小清水町字美和 5 2. 099-4133 北海道斜里郡斜里町字三井 183

Rare Records of *Saturina japonica* (Lepidoptera: Saturiniidae) in Eastern Hokkaido

KAWAHARA Susumu¹ & HASHIMOTO Masaru²

1. 5 Miwa, Koshimizu, Hokkaido 099-3614, Japan 2. 183 Mitsui, Shari, Hokkaido 099-4133, Japan

Saturina japonica (Moore) クスサン (Saturiniidae ヤママユガ科) は日本全国に分布し、幼虫は広食性で種々の広葉樹を食べる (井上 1982)。しかし北海道東部では偶産的と思われるわずかな記録しかなく、これまで十勝地方では上士幌町糠平、十勝川源流の 2 箇所 (小野 1967, 1986)、釧路地方では釧路市、標茶町の 2 箇所 (飯島 1990) で記録されているに過ぎない。また、これらはいずれも各地方で偶発的に 1 頭が採集されているのみで、北海道東部において同一地方で 1 年間に複数の個体が得られたことはなかった。

2007 年 8–9 月に著者の一人である橋本によって、網走地方の 3 箇所から 4 頭の標本が採集された。これは網走地方では初記録であり、かつ北海道東部においても稀な記録であるので報告する。

標本は 2007 年 8 月 26 日に斜里町三井で 2 頭 (図)、9 月 7 日に斜里町岩宇別で 1 頭、また斜里町に隣接する小清水町でも 9 月 19 日に 1 頭、合計 4 頭のいずれも雄個体が採集された。小清水町の標本はクモの網にかかっていた死亡個体を採集したもので、傷みがはげしく死亡後しばらくたっていると考えられた。なお標本は全て採集者である橋本が保管している。

ヤマユガ科の蛾の成虫は餌をとらず、幼虫時代のエネルギーのみで生活するので移動力は大き

くないと考えられる。したがって記録が稀な地域での 1 箇所のみの採集記録は、移植など植物の移動にともなう偶発的な発生と考えられる。しかし本報告での記録は複数箇所での連続した記録であるため、植物の移動にともなうものとは考えづらい。

気象庁の気象統計情報によれば、北海道では 2007 年 8 月 22 日を中心に 3–4 日間、南西よりで降雨をほとんど伴わない強風が吹いている (気象庁サイト <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)。今回網走地方で得られた 4 個体はこの強風で運ばれてきた可能性が高く、網走地方で継続して繁殖しているものではないだろう。

採集標本

2 ♂, 26 VIII 2007, 斜里町三井

1 ♂, 7 IX 2007, 斜里町岩宇別 (知床自然センター)

1 ♂, 19 IX 2007, 小清水町水上

引用文献

飯島一雄. 1990. 標茶町の蛾類. 標茶町郷土館報告 5: 1–94.

井上寛. 1982. ヤママユガ科. 井上寛・杉繁郎・黒子浩・森内茂・川辺湛・大和田守 (著), 日本産蛾類大図鑑 1. pp. 587–590. 講談社, 東京.



図. *Saturina japonica* クササン. 26 VIII 2007, 斜里町三井.

小野決. 1967. 東大雪地域生物相(蝶蛾編). 帯広畜産大学付属糠平生物研究所(編), 上士幌町文化叢書 1. 157 pp. 上士幌町, 上士幌.

小野決. 1986. 十勝地方の蛾類相 1. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 8: 1-81.